

平成28年度図書館利用者と館長との懇談会 ～利用者からの意見等への回答(概要)～

【対応状況・凡例】 ◎ すでに対応している項目 ○ 早急に対応を行う項目 □ 施策・事業を実施していく中で取り組むまたは検討する項目 — 対応が困難な項目	
--	--

番号	利用者からの意見・要望の概要	図書館の考え方	対応状況
1	消費生活センターでは消費生活展を開催しており、以前は文庫の方が消費生活に関する本を紹介してもらうなどしていた。今後また文庫の方に参加してもらうことはできるか。	消費生活センターと文庫の方とが共同してできる取組を支援します。	□
2	障害者福祉施設としては成年後見などの課題があり、より多くの方に福祉の現場を知ってもらえたらと思う。多くの方が集まる施設をうまく活用できたらよい。	障害者施設で開催されるイベント情報などが、図書館利用者に知ってもらえるような情報提供の方法を工夫します。	○
3	ちひろ美術館では、子供たちの芸術への扉となる「絵本の時間」という取組をNCBN（ねりま子どもと本ネットワーク）の方の協力を得て、20年程開催している。区のブックスタートなどと対象が同じであり、絵画と本をつなぐ取組を考えていきたい。	地域の方が、美術館や図書館を利用しながら芸術・美術の感性を高めていくことは大切なことだと考えます。今後、よりよい連携の在り方を検討していきます。	□
4	図書館でよみきかせをしているが、幼児対象が多く、大人になるまでの小中学生等に対してのよみきかせがあってもよい。話し手として対象に近い年齢の若者も参加すると嬉しい。	地域活動を担う青少年を育成する事業との連携など、話し手養成の取組を支援します。	□
5	地域の諸問題を解決することは、社会教育施設である図書館活動の柱の一つである。図書館は、解決に資する文献を供給することがもともとの仕事である。社会教育は地域の密なつながりを作っていくもので、その中心は図書館であるべきではないか。	地域の諸問題を解決するには、地域の方、当事者が情報を共有することが大切と考えます。図書館はさまざまな情報を整理し、提供する役割を担っていますので、地域課題解決に資する文献や、資料の提供に努めていきます。	◎

6	<p>学校図書館には図書ボランティアがいるが、個人的なつきあい以外に情報交流の場がない。石神井図書館に団体登録している学校だけでもよいので、そのような場を作ってもらえないか。</p>	<p>図書館活動に携わる方々の交流の場を作ることは、学校や地域における子供たちの読書活動の推進にとって大切なことと考えます。今後、交流会の開催について検討していきます。</p>	□
7	<p>よみきかせの会の時に、障害のある方も来られることがある。また、障害のある方向けにどのような本がよいか悩むことがあるので石神井図書館を介して相談などができればよい。</p>	<p>図書館のレファレンス業務として、関係者の方々と共に考えていきます。</p>	□
8	<p>社会教育に関して、新宿区図書館運営協議会の委員に社会教育委員が入っている。社会教育委員とは何か。</p>	<p>社会教育委員は、「社会教育法」に規定され、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行うなどにより、社会教育に関して教育委員会に助言する役割をもっています。練馬区教育委員会では社会教育委員をおいておりませんが、教育委員会が所掌する社会教育事業については合議制の教育委員会で審議を行っています。</p>	—

※練馬区立図書館全体に関する質問、意見等については、別項「図書館全体に関する意見、意見の概要」にまとめました。